

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500188		
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会		
事業所名	シルバーケア豊壽園 認知症対応型グループホーム美々		
所在地	津市高茶屋小森町字瓦ヶ野4159番地		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町提出日	平成23年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470500188&amp;SCD=320&amp;PCD=24">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470500188&amp;SCD=320&amp;PCD=24</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 23 年 10 月 31 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の能力・状態に応じた自立支援、要望・嗜好に応じた日々の過ごし方が出来る様に心掛けている。入居者が自由に伸び伸びと暮らし、穏やかな生活を送れるような雰囲気作りを行っている。平成23年5月より共用型通所介護の受け入れを開始し、今まで以上にレクリエーションや心身の機能訓練の充実を図っている。法人内に診療所があり、綿密な健康管理や緊急時の素早い対応が可能である。重度化した場合、地域総合ケアセンターの特性を活かして多岐に渡った対応が可能である。認知症介護の経験豊富な職員が配置されている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の運営する地域総合ケアセンターの一角にあり、前は診療所、横は保育園という恵まれた環境にある事業所は、健康面や医療面において利用者・家族の安心感につながっている。利用者それぞれが手押し車を押して、廊下を往復する歩行訓練が日課となっており、訪問時にも、皆、元気良く楽しそうに歩いている様子うかがえた。2ヶ月に1回開催されている運営推進会議は、地域との交流や意見交換の場としても定着しており、3ヶ月に1回の家族の集いは、集まりやすいよう「ホームパーティ」と称し、その内容等にも工夫を凝らしており、管理者及び職員の努力がうかがえる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を元に、「津の町に根付いて明るく楽しく仲良く」をホームの理念に掲げて、リビングや玄関に掲示して実践に努めている。	数年前に、地域密着型サービスの意義を重視して具体的に「津の町に」と追加している。職員皆で考えた理念を大切に捉え、玄関等に掲示し共有しており、日々のケアの中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域総合ケアセンターの一角にあり、保育園児や他事業所、通所介護事業の方との交流がある。	散歩時に挨拶を交わしたり、夏祭りには近隣の住民が多数参加しており、地域との交流を行っている。主には、同法人が運営する隣接の保育園やデイサービス、施設の人達との付き合いが多い。自治会には法人として入っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターなど、法人全体を通じての実践が主である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開き、近況報告やテーマを決めての話し合い、また地域からの情報を受け取る場として活用し、日々の介護に役立てるよう努めている。	近況及び現在取り組んでいる事等の報告後、質疑応答がされている。直近では、防災、レクリエーション、入居希望待機者について等、多岐にわたる話し合いが活発に行われており、サービスの向上に活かされている。又、家族は全員が1年おきに交代で出席されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人全体を通じての連携がメインとなっており、広報紙を送付して近況報告を行っている。事業所単体でも必要に応じて随時連絡を取り、相談等を行っている。運営推進会議の議事録も毎回送付している。	市担当者とは日頃から協力関係を築いている。必要な情報をもらい、解らないことは直接または電話で尋ねている。事業所としては、ヘルパーや専門学校生の実習を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人指定のマニュアルを元に、身体拘束の廃止に努めている。	年に1度は身体拘束廃止についての研修が行われており、委員会も設置されている。委員会で話し合われた内容は回覧し、職員間で共有されている。現在、身体拘束はしておらず玄関も開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加等を通じての知識習得を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加等を通じての知識習得を目指している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項書に基づいて、入・退居時に十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回のホームパーティー時に面談の時間を設け、近況報告や相談の場としている他、必要に応じて随時連絡を取り合いご意見・ご要望の聞き取りを行っている。	面会時や運営推進会議にて、又は、家族が集う会(ホームパーティと称する)にて、職員と利用者・家族、及び家族間のコミュニケーションの場を設け、家族の意見や要望を把握するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回会議を開き、各職員の意見を反映させる場に行っている。年一回、施設長と全職員との1対1の面談を実施している。	毎月の職員会議や、年初めの管理者との個別面談等で、職員の意見・要望を聞く機会を設けている。直近では職員意見に基づき事務機器の購入等を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	住宅手当・育児手当等、諸手当の充実、役職への積極的な登用、職員住宅の完備等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材管理課の計画を元に、各職員の意見も聞き取って研修計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会に加盟し、勉強会等に参加するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を検討して頂いている方にホーム見学並びにご相談の機会を設け、入居前調査にて生活上の問題点や生活暦の聞き取りを行い、入居後もご本との話し合いにてご意見ご要望の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討して頂いている方にホーム見学並びにご相談の機会を設け、不安の解消や疑問の解決に努めている。入居後も随時近況報告を行い、ご意見ご要望の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討して頂いている段階でホーム見学並びにご相談の機会を設け、疑問の解決等に努めるとともに、その時点で入居がベストかどうかの検討を、担当ケアマネの意見も聞き取って行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から随時ご意見・ご要望の聞き取りを行うとともに、適切な介護内容について職員間でも話し合い、共に力を合わせてより良い生活を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご相談をお受けすると同時に、こちらからも必要に応じてご相談をさせていただき、共に力を合わせてより良い生活を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限を設けず、気軽にご家族や友人・知人が遊びにきていただけるように努めている。隣接する施設を利用されている友人・知人を訪ねていく機会も設けている。	隣接するデイサービスやショートステイ等には、利用者の馴染みの人が多く、互いに友人・知人を訪ね会えるよう支援している。又、個別には昔からの馴染みの飲食店に同行したり、入居前まで住んでいた付近をドライブしたり等、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考えて、円滑な人間関係を築けるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等によって退居されても、状況に応じて進路相談の場を設ける事がある。退居されて他施設入所された場合、情報提供や状況に応じて相談等の話し合いを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前調査、また入居後においても生活歴や趣味等の聞き取りを行うと共に、今現在の問題点や要望の把握に努めている。	職員は、なるべく利用者全員の思いや意向、希望などをつかもうと努力している。把握困難な人に対しては、家族に聞いたり、特に夜間の落ち着いた時間帯などに個別に話しかけたりして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前調査をはじめ、入居後も随時ご本人やご家族に生活歴や趣味等の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察と記録の徹底、日課計画表の作成を行うと共に、毎月の会議にて情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一回ケアプランの更新を行い、ご本人、ご家族との話し合い、また職員間での話し合いに基づいて、最適な介護計画を作成するように努めている。	基本的には3ヶ月に1回、利用者の担当職員が付けた経過記録等を基に全職員で検討し、計画作成担当者が見直しを行っている。定期的にかかれるホームパーティーの際に、家族の思いや希望を聞き計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に記録すると共に、ケアプランの経過記録も毎月行い、それらを元に最適なケアを実践出来る様に、会議にて情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応を実施出来る様日々努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通所介護のご利用者との交流をはじめ、隣接する保育園や介護施設との交流を行っている。また、なじみの場所への買物や食事に出掛けて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する診療所の医師を主治医として、緊急時でも迅速に対応出来る様に努める一方、眼科や皮膚科等を中心に、なじみの病院がある方はかかって頂くように対応している。	現在は、利用者全員が協力医がかかりつけ医となっている。受診の際には、付き添いの職員が日々の様子を医師に伝えて、より適切な医療が受けられるよう支援している。家族も健康面、医療面については安心している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する診療所や介護福祉施設の看護師と連携を取って相談をし、適切な処置を取れるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が出た場合、毎週面会に行ってお本人の様子を把握すると共に、病院の医師や看護師との話し合いを持って情報交換等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化に係る指針」を元に、入居時に重度化した場合の対応についての説明をし、同意を得ている。重度化の兆しが見られる時はその都度ご家族と相談をして、適切な対応が出来る様努めている。隣接する特養とも調整している。	基本的には看取りは行わず、隣接する特養ホーム等を紹介することとなっているが、実際には過去に2名の看取りをした経緯がある。今後、重度化の兆しが見られた場合は、本人・家族と相談し、出来る限り本人・家族の希望に沿って対応して行きたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の研修や、介護老人福祉施設との全体会議での研修において、適切な対応が出来る様訓練を積んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震時の対応、緊急時連絡網などの訓練を年に複数回行っている。運営推進会議にて、地域の方や行政の方と一緒に避難訓練を行う事もある。	災害における訓練は、法人全体で行なわれる以外に、事業所として毎月1回避難訓練をしており、緊急時に備えている。又、来月は運営推進会議の際に、出席者と共に訓練を行い、意見を聞く予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の定める認知症対応マニュアルに沿って、プライバシーや人格等の尊重を心掛けた対応に努めている。	居室に入る時は必ず声を掛けるようにし、利用者 の話や訴えの中で、つじつまの合わない事があつても否定せず傾聴し受け入れ、個々の人格を尊重した対応を心掛けている。個人ファイルが居間に保管されている。	プライバシーの確保や守秘義務の点から、個人にかかわる書類やファイル等の重要書類は、責任ある取扱いと管理が望まれる。今一度、その点に於いて再点検し、管理の徹底を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の意思を尊重し、希望に応えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限の日課以外は入居者様個々の意思を尊重出来る様に、個々の希望に沿った対応をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族との連携や預り金からの購入によって、季節に沿った衣類を揃え、お出掛け等状況に応じたおしゃれが出来る様に助言している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週金曜日の調理をはじめ、昼食作りやおやつ作り、ホームパーティーにおいて入居者様と職員が協力しながら調理を行っている。	隣接する特養で調理しているが、金曜日の夕食やおやつ、特に誕生日などでは利用者個々の希望を取り入れられている。入居者が出来る範囲で職員と一緒に調理をしたり、テーブル拭きやおしぼり作り等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切な食事量や水分量を摂取できる様に促し、自力で摂取できにくい方は介助している。個々の能力に応じて粥や細かく刻んだ副食の提供、食べられない食材は代替するなどの対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き・うがいの促しをしている。自力で歯磨きが難しい方は介助している。入れ歯は毎晩預かり、洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力での排泄が難しい方についてはトイレ誘導・声掛けを行い、失禁の防止に努めている。	自力での排泄が出来る利用者でも、それとなく見守るようにしている。夜間は排泄チェック表を利用して声掛けし、居室のポータブルを利用する人、夜間用の大きめのパットを使用する人など、個々に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取・運動の促し、自力での排便困難な方については腹圧掛ける等の介助を行っている。必要な方については便秘薬の処方を主治医と相談の上行っている。毎日排便チェック表をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日と時間は決めさせて頂いているが、入浴順や浸かる時間、お湯の温度について個々の要望に応えられるように努めている。	基本的には月、火、木、土の午後に入浴支援しており、利用者個々の体調や都合によってはそれ以外の曜日でも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一定の決まりを設けず自由にさせて頂いている。エアコンや加湿器にて快適に休める様に支援している。昼寝も適度に取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書を綴って、すぐに閲覧出来る様にして薬の効用等について誰もが分かるようにしている。新しい薬が処方された時は必ず申し送りしている。自力で服薬が困難な方は見守り・介助行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや書道、創作等個々の趣味に応じて楽しんで頂いている。レクリエーションも日替わりで計画し、希望に応じて参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には毎日散歩に出て頂いている。ドライブやショッピング、外食など、入居者様の希望に沿って企画している。ご家族の協力で帰省や墓参りにも出掛けて頂いている。	日常的に散歩をするよう努めている。利用者の希望を聞きながら、レク担当者が中心となり、少人数や個別での外出や外食を支援している。花見などは全員で楽しみ、個々には家族の協力を得ながら行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には現金は職員管理とさせて頂いている。状況に応じて、外で買物する時に自分で支払って頂いたり、小額のお金を居室で管理して頂くなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけて頂いたり、手紙を書いて頂いて投函したりしている。かつては携帯電話を所持している方もみえたが、現在は希望者がいらっしやらない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い敷地内の清潔を保っている。季節に応じた飾り付けを行ったり、入浴時には入浴剤を入れたりして快適な空間作りに努めている。	廊下の天井は高くガラス張りで、その床下は消臭と除湿効果の高い炭が使用されており、健康面での配慮がされている。食堂、居間、和室は全て窓が多く開放感があり明るい。又、あちこちに観葉植物が置かれ、利用者の作品や写真等が飾られ居心地の良さが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所は主に居室である。廊下のベンチや食堂のテーブル、リビングのソファにて仲の良い方同士が思い思いに話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に昔から使っているものを自由に持ってきて頂けるようにしている。ご家族の写真等も飾って頂いている。	各居室には押し入れとベッドが備わっており、個々には小さめのタンスやテーブル、小物入れ等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫されている。家族の写真を飾ったり、中には大事な位牌を置いている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は安全に配慮したバリアフリーの作りになっている。毎日歩行訓練を行い、出来る事は自分で頂くように促す等の支援を行っている。		